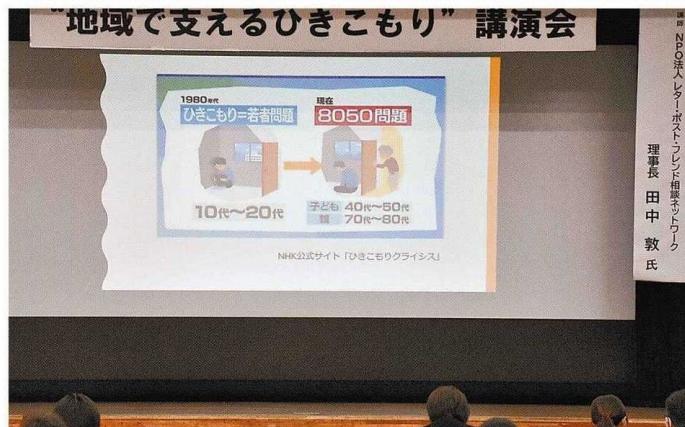


## 8050問題 稚内で札幌の団体講演会



【稚内】「地域で支えるひきこもり講演会」（市主催）が稚内総合文化センターで開かれた。レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク（札幌）の田中敦理事長が、80代の親が50代の子どもの生活を支える「8050問題」について解説。約70人が来場し、70代以上のお年寄りも目立った。

17日に開催され、田中理

事長は、「1980年代のひきこもりは若者の問題だったが、高齢化が進み、離職後にひきこもる8050問題が起きている」と指摘。「中高年のひきこもりは長期化する傾向があり、親が亡くなつた後は孤立死が懸念される」と説明した。

効果的な支援策として「居場所づくり」を挙げ、「ひきこもりの人にはさまざま不安に苦しんでいる。居場所さえあれば、相談や

8050問題への対応策などが紹介された講演会

### 「マイルドなおせっかい」心掛けて

支援につながり、どうすれば抜け出せるかを学ぶことできる」と強調した。

8050問題が年々、深刻化する中、「求められるのは地域のマイルドなおせっかい」と指摘。「監視するのではなく、関心を持つよう心掛けてほしい。近くの家族で気になる場合は稚内市のひきこもり相談窓口に連絡してほしい」と呼びかけた。同団体は1999年に発足し、ひきこもりの人や、その家族からの相談に応じ、自立して社会参加できるよう支援している。

一方、稚内市が2020年に実施した実態調査（対象は15～64歳）で、ひきこもりの47人が確認されており、市には20年4月～今年1月、当事者19人が延べ57件の相談をしてきた。ただし、内閣府が15年に行つた調査結果に基づく推計では、市内の当事者は約270人に上り、市は未確認のひきこもりの人のがかなりいるところである。

# ひきこもりの中高年の居場所づくりを

©北海道新聞社